

# はばたき

第3学年

平成30年3月8日

最終号



## ご卒業おめでとうございます

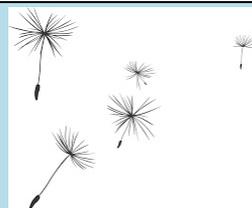
今日3月8日は、四日市市立西陵中学校の第42回卒業式です。この3年間で多くの仲間と協力し、多くの困難を乗り越えてきましたね。この3年間の経験を自信として、これからの人生においても全力で頑張りたいと思います。また今日は、いつもお世話になっている保護者の方へ感謝の気持ちを伝えられると良いですね。

### 卒業おめでとう。

『62人のわたげ』。これは何のタイトルだったか覚えていますか？

「わたげ」は新しい土地で芽を出してどんどんと増えていきます。それぞれの進路先に飛んでいく62人の卒業生のみなさん。この「わたげ」のように着地した新しい地で、りっぱに成長して大きな花を咲かせてください。次に会った時にはきっと大輪の花になっていることでしょう。その日が楽しみです。

レジェンドティーチャー 加藤 淳次



卒業おめでとう！みんなと過ごした2年間はあっという間に過ぎました。人見知りで少しぎこちない感じのスタートでしたが、今までたくさん関わってくれましたね。一番印象に残っているのは学校行事です。3年生の時のような仲間との団結や努力する姿が、見ていてとてもうらやましかった。仲間との関わりの中で成長してきた自分に自信を持ち、卒業しても大きくはばたいていってください。いつまでも応援しています。

一期一会マスター 水谷尚之

【1年生】あれは燃えるハムスターではありません。

【2年生】3年間で一番つかった一年でした。でも、自分が一番成長した年でした。

【3年生】たくさんの夢が達成された年でした。感動の全員全脚、春風の中で、学年主任を泣かす。そして何より3年間あなたたちを担任することができたこと。本当に光栄です。悔いの残らぬよう、勇気を持って色々なことに挑戦していってください。卒業おめでとう。

ベリービューティフルティーチャー矢田



# 卒業おめでとう！

みんなと一緒に過ごした一年はとても楽しくて、  
あっという間に過ぎてしまいました。  
多くの可能性を秘めた皆さんへ  
一日一日を大切に、幸せになってくださいね！

ニャンコ研究家 勝田 靖子



## 卒業おめでとう

当然ですが、「CHANCE」の意味を知っていますか。  
「CHANCE」は「機会」という意味です。これから  
先には、多くの「CHANCE」が存在します。その  
「CHANCE」に挑戦してほしいと思います。挑戦は  
英語で「TRY」ですね。この頭文字の「T」を、「CHANCE」  
の後ろの「C」に加えてみてください。そう、  
「CHANGE（チェンジ・変化）」になりますね。機会  
を挑戦すれば変われます。ぜひ多くのチャンスに  
挑戦してくださいね。

スキルアップポイントスカウティングカウントチャンスマン  
片岡 朋大



## ◇◆◇保護者の皆さまへ◆◆◇

お子さまのご卒業、おめでとうございます。

3年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

本日、卒業生62名は9年間の義務教育を修了し、それぞれが自分の進路に向けて新しい一歩を踏み出します。

今後ますます健やかに成長されますよう、そしてご活躍されますよう、お祈り申し上げます。

3年間ありがとうございました。

# 答辞

代表 3年2組 S・Y

二〇一八年三月八日今日私たち六十二名は、西陵中学校を卒業します。今日までの三年間は長いようで短かったです。笑い合い励まし合い、助け合い私たちはこの西陵中学校で共に成長してきました。

三年前の四月私たちは西陵中学校に入学しました。少しサイズの大きな制服に袖を通すと、気が引き締められました。新しい環境での勉強や生活、小学校にはない放課後の部活など、中学校生活への希望に満ちていた半面、初めて出会う仲間と仲良く過ごせるのか不安もありました。けれど、気が付けば、そんな不安もなくなり中学校生活を楽しんでいました。

一年生の一番の思い出といえば冬の自然教室です。私たちは西陵中学校のスキー教室一期生でした。ほとんどの人がスキー初体験で何度も何度も転びましたが、お互いに「大丈夫」と声を掛け合い、何度も何度も立ち上がり二日目にはほとんどの人が滑れるようになりました。仲間と助け合うことで、成功につながると思いました。

2日目の夜には入学直後に書いたショートタイムカプセルを読み一年間の自分の成長ぶりを感じました。そして、そのあとに書いた卒業を控えた未来の自分への手紙。皆はどんなことを書きましたか。学年として初めての大きな行事は、笑って、笑って、笑いまくって最高の自然教室になりました。

二年生になり、後輩もできちよっぽり大きくなった気がしました。六月には職場体験がありました。私は、アクトスに行きました。大きな声で挨拶をすると、お客さんが笑ってくれてとても気持ち良かったです。皆それぞれ自分の興味のあるお店や将来自分が付きたい職業に関わる職場に行きました。場所は違うけれど、どれも大変で、でも、とてもやりがいがあり、仕事をする意味や将来の自分について考えるきっかけとなりました。

三学期には社会見学がありました。自分たちでどこを見学するのか、お昼は何を食べるのか、どの電車に乗るのか考え計画を立てました。当日はどの班も無事に名古屋市内を見学することができ、名古屋でこれだけ楽しかったのなら、東京での班別分散学習はどんなに楽しいのだろうと、修学旅行がより一層楽しみになりました。

最後の年 三年生！ どの行事も最後になる学年、最高学年としての熱い気持ちもありましたが、今までの三年生みたいになれるのか、受験に向けて大丈夫なのかなど、たくさんの不安もありました。

五月には待ち遠しかった修学旅行がありました。スローガンは「一五の夢」。シンプルだけど「一五」という数字にはいろいろな思いが詰まっていて、私たちの個性豊かな感じが表れているとても素敵なスローガンだと思いました。そして、このスローガンの下、さまざまなことを学びました。

アメリカの水爆実験の被害にあった第五福竜丸展示館を訪れました。世界で唯一の被爆国として、たくさんの人の命を奪った核を二度と使ってはいけないということを伝えていかなければいけないと強く感じました。

また、都内の班別分散学習では、臨機応変に対応する判断力、行動力がためられました。横殴りの雨の中、迷路のような東京を見学するのはとても大変で、計画通りにはいかず電車を乗り間違えるなどの苦労の連続でしたが、班で時間を考え見学地を削るなど計画を変更したり、協力したりしながら頑張りました。

新幹線でのババ抜き、移動中のバス、ホテルでのひと時 みんなで過ごしたこの三日間のひとつひとつが最高の思い出です。学校から遠く離れた東京で、学年として、また一つ大きく成長できました。

9月、最後の体育祭ではどちらのクラスも今まで以上に一生懸命練習に取り組みました。当日は個人種目や選抜リレーなど、一人一人がクラスの勝利に貢献しようとがんばりました。特に、学年種目の全員全脚はクラスの心が一つにならなければ成功しません。足首が真っ赤になるまで練習し「並び方かえよ」や「バンドはずれやん

ようにしよ」と声を掛け合い、工夫を凝らし、どちらのクラスもベストを尽くすことができました。

そして、文化祭の合唱コンクール。体育祭からそれぞれの思いがあり「合唱コンでは負けやんからな」や「合唱コンも勝つから」と互いに闘志を燃やし、文化会館へ行くことを目標に、日々歌声を響かせました。当日は、緊張の中一組は「旅立ちの時」二組は「春風の中で」を歌いました。仲間と手を握り合い結果を待つ時間の長かったこと。結果を聞いた時の、それぞれの涙。一年生や二年生の時にはなかった涙。これは本気で取り組んだからこそ流した涙だったと思います。

この三年間にはまだまだたくさんの出来事がありました。どれもとても良い思い出となっています。それは、この学年の皆と過ごせたからこそだと思います。

そんな私たちの充実した中学校生活を支えて下さった先生方。今まで本当にありがとうございました。個性豊かである私たちに、頑張った時は褒めて、ダメな事をしたときには叱って、しっかり向き合ってくださいました。進路に悩んだ時には、的確なアドバイスをして下さり、励ましを下さいました。その言葉の一つ一つが温かく、不安でいっぱいだった私たちを救ってくれました。先生方との一つ一つの会話には全く壁は感じられずとても楽しかったです。二年生の時に加藤先生が西陵中学校に来られ、私たちに「要になってほしい」とおっしゃいました。私たちは先生の望む要になれましたか。先生方の教えを胸にこれからの人生を私たちは歩んでいきたいと思えます。

お父さん、お母さん、今日、西陵中学校を卒業できるのは、お父さん、お母さんの支えがあったからです。お父さん、お母さんが心配してくれているのに反抗してひどい態度をとってしまうこともありました。私は三姉妹の末っ子で、意地っ張りでもとても迷惑をかけたと思います。それでも私を理解し、信じて見守ってくれたこと、とても感謝しています。皆もきっと同じ気持ちだと思います。普段は恥ずかしくて言えないのでこの場を借りて改めて伝えさせて下さい。お父さん、お母さん、いつもありがとう。そして、これからもたくさん心配や迷惑をかけてしまうと思いますが、どうかよろしくお願いします。

在校生のみなさん。私たちの背中には皆さんにどう映っていますか。みなさんがいたから、私たちは先輩として自覚を持ち、より一層成長できました。生徒会の活動にもみなさんが協力してくれたおかげで盛り上げることができました。中学校生活は本当にあっという間です。仲間とのかけがえのない時間を悔いのないように過ごしてください。そして、これからは皆さんが西陵中学校を引っばっていく番です。この西陵中学校をどんどん盛り上げていってください。

最後に六十二名の最高の仲間たち。みんなと出会えたこと本当に、本当に、本当に、感謝しています。私はみんなとする円陣がとても好きです。体育祭、文化祭、気持ちが一つになっている気がして嬉しかったです。

一月、二月の入試の時、寒さで凍える中互いを励まし、応援し合いました。私は、皆と一緒に頑張っていると思うと、安心して試験を受けることができました。しかし、友達と教室が分かれこれから別々の道を歩むんだという実感もしました。日に日に迫ってくる「卒業」や「別れ」という言葉。今日がともに過ごす最後の時間だと思うと寂しいです。できることなら卒業したくない。そんな思いもあります。

しかし、私たちにはそれぞれの道があります。これからは一人一人自分の夢に向かって歩いていく事でしょう。でも、立ち直れないことや苦しいこともあると思います。そんな時は、友達を頼ってください。私たちの友情でかなわないものなんてないのです。いつか成長し再び出会う日を楽しみにしています。ありがとう。

素晴らしい出会いをくれた西陵中学校、先生方、在校生の皆さん、お父さん、お母さん、地域の皆様、本当にありがとうございました。心から感謝し答辞の言葉とさせていただきます。